

# 放課後等デイサービスの充実

## 課題や意見

- ・就学中の障害児の約50%が放課後等デイサービスを利用。（障害児保護者アンケート）
- ・今後充実させるべき支援として、約38%が放課後等デイサービスと回答。（障害児保護者アンケート）
- ・今後、放課後等デイサービスを利用したい保護者は約58%。（障害児保護者アンケート）
- ・放課後等デイサービスを使えるようになったことで、親や先生以外の人との関わりや、友人と出掛けることが出来るようになった。（障害者団体ヒアリング）
- ・就学児の今後充実させるべき支援として、53%が友達への関わり方に対する支援、48%が会話などのコミュニケーション支援、41%が補習など学習に対する支援と回答。（障害児保護者アンケート）
- ・18歳以上になった後、放課後等デイサービスの受け皿になるサービスがない。（障害者団体ヒアリング）

## 現状や今後の方策

### 【放課後等デイサービスの充実に向けて】

#### ➤ 放課後等デイサービス事業所回りを実施

・市と各障害者相談総合支援センターと、市内放課後等デイサービス事業所を巡回し、日頃の課題や問題点

などについて情報共有を実施中。

・各事業所の、活動内容・スタッフ配置・ガイドラインの活用状況等について確認し、支援内容やスタッフ

配置、体制整備面等のさらなる充実に向けた啓発を実施予定。

#### ➤ 放課後等デイサービス事業所との連携

・市内放課後等デイサービス事業所を巡回で得られた日頃の課題や問題点などをもとに、情報交換の場の

設定を検討予定。

・各事業所の課題解決や職員の専門性の確保に向けた研修等の案内を検討予定。

# 相談支援体制の充実

## 課題や意見

- ・ 障害児の保護者や家族に必要な支援として、「専門家による障害児や発達に関する不安のある子どもの子育て相談」と回答した割合が68.3%（障害児保護者アンケート）
- ・ 相談窓口の担当者のほうが、知識がないケースがある（障害者団体ヒアリング）
- ・ 教育と福祉の連携が不十分、相談に行っても障害児の情報が分からない（相談支援事業所ヒアリング）

## 現状や今後の方策

### 【相談支援の充実に向けて】

- ・ 障害のある人への相談支援について、「障がい者総合相談支援センターそういん」と障害者総合相談支援センターくわな」の2ヶ所に、平成27年10月1日より「桑名市社協障害者総合相談支援センター」が加わり3カ所で相談支援を実施しています。
- ・ 平成29年4月、大山田コミュニティプラザに介護や障害、子育てなど、さまざまな福祉分野の相談に対し、総合的に対応する窓口として福祉なんでも相談センターを設置。
- ・ 計画相談支援事業所は現在10ヶ所開設されています。平成29年度には、全ての利用者に対してサービス等利用計画を作成することができている。
- ・ 市内の相談支援専門員を対象として定期的に計画相談支援会議を開催し、計画相談の質の確保を目的に事例検討や、情報共有、交換の場を持っています。
- ・ 地域包括支援センターと協働で、介護と障害の連携研修を開催し、介護保険対象年齢到達時の連携のため、介護や障害、計画相談事業者等が関係づくりや事例検討を実施しています。

# 障害者・支援者の高齢化対策

## 課題や意見

- ・ 障害者の家族も高齢化してきており、障害・高齢関わらず一緒に利用できるサービスが必要（相談支援事業所ヒアリング）
- ・ 親が高齢になり、亡くなった後に子どもが生活していけるのか心配（障害者団体ヒアリング）

## 現状や今後の方策

- ・ 平成27年に「桑名市福祉後見サポートセンター」を設置し、成年後見制度の相談支援や市民後見人の養成、法人後見の受任、市民の皆さんへの広報・啓発等を行っています。
- ・ 平成29年2月、「親亡き後の成年後見制度の活用」のテーマでシンポジウムを開催。



- ・ 親亡き後も地域で安心して生活できるように、引き続き成年後見制度の周知や啓発を行っていく。
- ・ 市民後見人の養成や相談支援を充実させる。
- ・ 障害者総合相談支援センター会議を随時開催し、他職種連携により、生活継続のための支援体制をつくる。

# 地域共生社会の実現に向けて

## 課題や意見

- ・ 高齢・障害・児童などの各分野ごとの相談体制では対応が困難な事例、世帯の中で課題が複雑化している事例や支援を必要とする人が自ら相談に行く力がなく、孤立している事例への支援。
- ・ 勉強会を開くなど、情報共有する機会をつくり、関係機関との連携をとる（相談支援事業所ヒアリング）
- ・ 障害者団体と、民生委員児童委員との協力・連携ができるとよい（障害者団体ヒアリング）

## 現状や今後の方策

### 各分野連携しての対応が必要

- ・ 本人と世帯の課題が複合している
- ・ 自ら相談に行く力がない、頼る人がいない。
- ・ 本人が拒否している。
- ・ 周囲の人が気付いても対応する手段がわからない。

## 対応策

- 身近な場所で分野をこえて課題に総合的に相談に応じる体制づくり
  - ・ 地域包括支援センター、障害者総合相談支援センター、子ども総合相談センター、福祉なんでも相談センターなど連携して、途切れのない支援にしていく。
- 「他人事」から「我が事」になるような環境整備、地域の人々との連携
  - ・ 地域の人びとの交流拠点や機会づくり